

小田原・南足柄の任意協議会 焦点は

前開成町長 露木・日大教授に聞く

小田原、南足柄両市が合併を議論する任意協議会が21日に始まる。「合併が望ましい」とした両市の研究報告書^①②について、双方に隣接する開成町の町長、露木順一・日本大教授（地域政治論）は「単なる財政効率の側面から見たデータ」と批判。両市長が合併のデメリットも明示して、「議論をリードするべきだ」と主張する。議論を進めるうえでのポイントについて聞いた。

（両市の職員が作った）

報告書は「財政が苦しいから一緒になれば何とかかな」と、官僚の都合の良いデータをとりまとめている。机上の空論で物事を進

めてはいけない。

2市は対等だと言っても力量の差は明らかで、事実上の吸収合併になる。吸収される南足柄側の痛みと、市の名がおそらく消え

合併短所も明示して
両市長 議論リードを

小田原、南足柄両市合併の研究報告書

両市長の指示を受けた両市職員が共同で研究し、2015年1月付でまとめた。2市合併後の歳出削減は年間約14億円など効果を見積もり、「スケールメ

リットを生かした行政サービスの提供」のために合併を提言。一方、地域経済への影響など、デメリットに関する記述はほとんどな



るとか、諸先輩の長い伝統をなくすという思いが、この紙切れには何もない。

私は今回の合併の意義は大いに認めます。（県西地域の）中心性を強化するのは賛成です。ただ、それには指導力が必要だ。

「小田原と一緒にすることで活路を見いだしたい」と加藤修平・南足柄市長がはっきり言うべきです。財政効率上の判断のほか、合併した場合のデメリットについて明示し、将来のために合併が有効であると示すべきなのです。市民と議会に議論が巻き起こり、デメリットを解消できるという方向に収斂すれば、初めて真の合併が成立する。

たとえ非効率でも、残すべきものを残さないと地域

の資源は廃れる。加藤憲一・小田原市長も「南足柄の自治、伝統が守れるかどうかを、もっと議論させる」と南足柄側にオープンに言っ、初めて中心市の市長になれる。周辺部が生き生きとできるかが、合併の成否を決めていく。

県西部は合併に近い連携をとらねばならないエリアだと想定し、私たちは開成町をつくってきた。小田急線開成駅前には小田原に次ぐ副中心的な機能を果たせる。そういう目玉があり、目玉を生かすために合併だと言え、町民の皆さんも納得すると思う。

南足柄は富士フィルムからの破格の税収で、普通の市以上のサービスを当たり前のように提供してきた。税収が細っていったとき、リアルな情報を市民にきちんと伝え、合併する場合は「こういう手立てを講ずるためなのだ」と実感がわく説明を市長がやるべきだ。

（村野英一）